

## 2004 年度 委員会活動成果報告

( 2005 年 3 月 31 日作成 )

委員会名	地方都市小委員会	主 査 名：北原 啓司
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：鳴海 邦碩
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	地方都市の地域性と固有性をふまえた都市計画のあり方について、特に中心市街地問題と市街地拡大に焦点を当てて、具体的な事例の分析を行いながら明らかにする。 2003 年度 これまでの研究成果の出版および議論 2004 年度 街なか居住に関するリレー形式の研究会の全国展開	
委員構成 (委員名(所属))	北原啓司(弘前大)、瀬戸口剛(北大)、今野亨(ドーコン)、樋口秀・中出文平(長岡技科大)、野嶋慎二(福井大)、木谷弘司(金沢市)、猪瀬典夫(マキユアス)、浅野純一郎(長野高専)、洪正徳(価値総研)、浅野聡(三重大)、鷗心治(山口大)、出口敦(九大)、梶原文男(大分県)、熊野稔(徳山高専)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2004 年度予算	180,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004/8/29 オーガナイズドセッションおよび打ち合わせ(13名) リレー形式の研究会 2004.7 仙台市、2004.10 福岡市、2004.12 福井市、2005.2 長岡市、2005.3 函館市、2005.3 仙台市
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) オーガナイズドセッション 街なか居住に焦点をあてた研究は、街なかの住環境を問いただす視点や、逆に郊外居住地の持続可能性の問題を浮き彫りにする形となり、2005 年度大会において、パネルディスカッションとしてさらに深い議論を進めることとなったリレー形式の研究会 仙台に始まり、福岡、福井、長岡、函館、仙台と続いた研究会は、各地方都市に共通する課題と、地域の特殊性を明確にすることとなり、また、この委員会が発端となり、東北地方整備局と北海道開発局との合同研究会としてハコダテまちなかオープンスクールを開催できたことは、ここ数年続けてきた活動の一つの成果であると評価できる。
	委員会 HP アドレス： <a href="http://urban.nagaokaut.ac.jp/~plan/local/local.html">http://urban.nagaokaut.ac.jp/~plan/local/local.html</a>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 2004 年度に実施を考えていた、オーガナイズドセッションとリレー形式の研究会を、実現することができた。OS では、街なか居住を切り口にした新たな地方都市の都市計画論構築の必要性と可能性が明確になった。また、リレー形式の研究会は、北海道から九州まで委員会メンバーが媒介となる形で、行政担当者や計画者をつなぐ取り組みとして成功し、その仕組みは次年度も継続可能である。また、それを次年度の出版につなげることができそうである。
その他評価すべき事項	